

# いっちゃんええで大阪弁は！

36期

## I テーマ設定の理由

私達は小さい時から当たり前の様に大阪弁を話してきたが、ある日ふと、2人の間で大阪弁のことが話題になった。同じ大阪弁を話しているつもりなのに、言葉使いの差が現れたのである。私達は、今の大阪弁は昔の純碎な大阪弁の言葉使いとは違ってきてているのではないかと話し合った。それが、この自由研究をしようと思いついたた一番大きな理由である。言葉使いを調べることによって大阪弁の特性を知り、その受ける印象を考察することにした。

## II 研究方法

### [1] アンケート調査から見た大阪弁

- (1) 心斎橋、なんばCITYでインタビュー
- (2) クラスでアンケート
- (3) (1)、(2)より大阪弁の印象、特性をまとめる。

### [2] 言葉使いから見た大阪弁

- (1) インタビューでの会話 アンケートで出てきた大阪弁、ラジオ番組の録音、大阪弁で歌われている歌の歌詞、日常会話から、大阪弁をぬき書きする。
- (2) (1)を参考に、言葉使いの特徴を見つけ出す。
- (3) 言葉使いの特徴を、文献で詳しく調べ考察する。

### [3] [1]、[2]の結果をもとに、大阪弁の持つ特性をまとめる。

## III 研究内容

### [1] アンケート調査から見た大阪弁

- (1) 心斎橋、なんばCITYでインタビュー
  - 店でよく使う大阪弁は？（店員）  
まいどおおきに
  - 大阪弁の印象は？（店員、歩行者）  
柔らかい、親しみやすい、汚ない、人をばかにしている、用件がはっきりしない
  - 大阪弁で好きな言葉は？（店員、歩行者）  
おおきに、好っきやねん

### (2) クラスでアンケート

- 大阪弁の印象は？  
親しみやすい、なじみやすい、人あたりがよい、汚い、きれい、柔らかい

・大阪弁で好きな言葉は？ 大阪弁といわれて思いつく言葉は？

すっきやで、よろしおまんなあ、よおけ、おもろい、いのか（帰ろうか）

(3) 印象としては、なじみやすい、遠まわし、柔らかい、気持ちが伝えやすいなどが挙げられる。これらのこととは大阪弁の長所だと言えるが、短所でもあることに気付いた。

## 〔2〕 言葉使いから見た大阪弁

### (1) 大阪弁ぬき書き一部

- ・だから、他人さんと話していても、よう昔から知っている人みたいですねわなあ。
- ・そら、大阪人やから、大阪弁の方が好きやね。（インタビューより）
- ・おまえらそんことやめたれや、ええかげんにせえなあかんで、どあほ。
- ・なんやねん、何言うてんねん、聞こえへんわ。（3Dアンケートより）
- ・何してんねん、あんた今一番大事な時ですやんか。
- ・北海道ちゅうたら、大阪の千倍位あんのんちゅう？（ラジオ番組より）
- ・あんな、今日、エラのテスト返ってくんねんで。  
うそやー、ほんまに返ってくんのん？ やばいで。（会話より）
- ・そりゃわいはアホや、酒もあおるし、女も泣かす  
せやかて、それもこれもみんな芸のためや  
今にみてみい／ わいは日本一になったるんや、日本一やで！  
わかってるやろ、お浜、なんやそのしんき臭い顔は  
酒や酒や、酒買うてこい  
(歌詞「浪速恋しぐれ」より)

### (2) (1)を参考に、言葉使いの特徴を調べる

- ① 語尾をのばす (例) もうあかんわあ、見てみい
- ② 一音節語をのばす (例) しんどいめえして、よおもうかりまっか
- ③ デで終わる (例) 安いで、おもろいで
- ④ ナで終わる (例) よろしおまんなあ、あきまへんな
- ⑤ ヤで終わる (例) ほんまや、飲みたかったんや
- ⑥ ワで終わる (例) あかんわ、でけへんわ
- ⑦ ヤロをよく使う (例) そうやろ、あるやろ
- ⑧ ヤをよく使う (例) そやけど、好っきやねん
- ⑨ ンをよく使う (例) そんなん、負けへん、そうやんか、あんねんて
- ⑩ エ段に変化する (例) 思えへん（思わない）、わかれへん（わからない）
- ⑪ 標準語を変化させている (例) 大阪弁ちゅうたら、ちゃうんとちゃう
- ⑫ 促音便をウに変える (例) 言うたら（言ったら）、好きおうて（好きあって）
- ⑬ つまる (例) よろしおまっせ、安いでっせ
- ⑭ 省略する (例) おもろい（おもしろい）、してまうぞ（してしまうぞ）
- ⑮ ドで強調する (例) どあほ ど根性

### (3) 言葉使いの特徴を、文献で詳しく調べ、考察する

#### ① 一音語をすべて長呼する

・目エ赤いで、・あの映画見イたいわ

をいう様に、大阪人は名詞、動詞などの一音語をすべて長呼する。また、大阪人が五十音図を読む時「タア、チィ、ツゥ、テエ、トオ」の様に音が長めになる。つまり (ta) の (t) より (a) の方へ心をこめるというのである。このことから子音より母音を入念に発音することがわかる。これが原因になって子音がなる。そのために柔らかく聞こえるのである。例えば、「淀川の水」が「ヨロガワノミル」となるのである。

	大 阪	東 京	=大：東
母音	koota : katta = 3 : 2	harota : haratta = 3 : 3	
子音	koota : katta = 2 : 3	harota : haratta = 3 : 4	

左の表を見てもらえば、大阪弁の方が、母音に富んでいるのがわかるだろう。

これらのこととは、音声から見た大阪弁の特性を知るのに、重要な意義をもつ。母音多過であるということは、大阪弁は表情力において優れているということになるのである。

#### ② 撥音が多い

東京弁で「そうですね」「そうですね」京都弁でも「そうどすな」であって「す」がくずれない。しかし、大阪弁では、その「ですな」「だすな」が共に、「だんな」「でんな」と鼻へ抜ける。これを手始めに、

・よろしおまンなあ ・明日映画行くねンてえ、・そんンないで  
といった具合に次から次へと「ん」が耳に飛び込んでくる。「ん」は母音に次いで、耳に快い音である。表情力という点では、とうてい母音には及ばないけれども、東京弁の様に促音の多い言語に比べると、まことに柔らかく優しい感じを与え、聞く人の心を和やかにするものである。「ん」を使うことによって、大阪弁は柔軟的だといえる。

#### ③ 多音性である

東京で「頼むから貸してくれ」というのに対し、大阪では「頼むさかいに貸してくれ」とか「頼むよってに貸してくれ」とか言う。これを見ても、大阪弁は多音性といえる。

他に  $\left\{ \begin{array}{l} \text{も……私も見たよ} \\ \text{かて……私かて見たよ} \end{array} \right.$   $\left\{ \begin{array}{l} \text{の……私のです} \\ \text{のん……私のんです} \end{array} \right.$  などがある。

ここで指摘できることは、東京弁においては、全助詞の半数までが一音節であるのに、大阪弁においては、2音以上の多音性の助詞が多いということである。だから、どんなに早くしゃべっても、テンポがのろい。これこそ、大阪弁は言葉そのものにおかしみがあるといわれる主因の1つでもあるのである。

これらのことから、大阪弁は、迂回的表現（遠まわしの表現）、冗漫的表現（まだるっこい表現）であるといえる

現代標準語  $\left\{ \begin{array}{l} \text{簡潔的} \leftrightarrow \text{冗漫的} \\ \text{直截的} \leftrightarrow \text{迂回的} \end{array} \right\}$  現代大阪弁

この迂回、冗漫という特質が、大阪弁は間のびがしてまだるっこいという印象の要因となっている。また、待遇態度の不鮮明さを印象づけるのに役立っている。つまり、非能率的である。

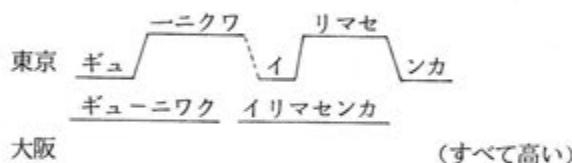
#### ④ 平板である

変な反例であるが、東京・大阪のアクセントの違いを比べてみると、次のようになる。



これでもわかるように、大阪弁では一区切りの言葉の末尾とか途中で、ある一音だけ、ヒヨイと高くなることがある。また、全体から見ると、東京は山の連続を連想させ、大阪は、まるで平野の中で電信柱が立っているみたいである。山国アクセントに慣れた人の耳には、平野の電信柱のアクセントが、春風駘蕩（春風のようにどかな様子）といった感じと同時に、何かユーモアのようなものが感じられてならない。しかも反対に、山国アクセントは、起伏感に富みいかにも活動的な感じがすると同時に、せせこましく神経質なものを感じさせる。

次に、「牛肉はいりませんか」を試してみると



前例に比べ、東京弁はさほど変化はないが、大阪弁はまるで違う。十一音全部が高音部でノッペラボウに発音される。まるで高原である。

平野の電信林と、高原との共通する点は、共に「原っぱ」的であるということである。

大阪弁は歯切れが悪いとか、語尾がはっきりしないとか、よく耳にする批評だが、この原因は、アクセントの特質にある。しかし、表現次第では、この特質が威力を發揮するのである。

#### ⑤ 省略率が高い

「かさ貸してっちゅうてたで」

この様に、大阪弁ほど文字で書いて変なものはない。これを標準語に直すと

「かさを貸してと言っていたよ」

となる。一般に大阪では「て、に、を、は」を省略する場合が多い。

大阪弁では、特にアクセントのない文字で現されると読みづらい。これは、大阪弁の省略の部分がアクセントで埋められているため、耳にはかえってなだらかに響くのだといわれている。積極的にはその社交性（親しみの情）消極的にはその存在理由（慎みの情）を表す。このことは、相手の反感を予防することであり、従ってその表現は情意的である。また、省略することによって、間が抜けて締まりがないとか、内容がぼやけるという症状が出てくる。つまり、非分析的、非論理的なのである。

現代標準語  $\left\{ \begin{array}{l} \text{分析的} \leftrightarrow \text{非分析的} \\ =\text{総合的} \\ \text{論理的} \leftrightarrow \text{非論理的} \\ =\text{情意的} \end{array} \right\}$  現代大阪弁

#### ⑥ 語尾に「わ」をつける

東京弁で「だ」大阪弁で「や」で言い切ると、いかにもお転婆になり、人柄や育ちが思われる。しかし、優しく詠嘆する時に用いられる「わ」を使うことにより、女性的に聞こえる。

##### (イ) 女性専用の「わ」「わあ」

・断定表現「や」「ねん」に付く

あれ乾先生やわ。今からあの子、友達の家へ行くねんわ。

この「わ」は場合によって「わあ」ともなる。驚きを表す時、強調する時に用いられる。

そして、大阪女性のいいしれぬ色っぽさが生じるもの、この時である。

・所望表現「てえ」「とう」「で」「ほしい」に付く

早よ来てえわあ、ダイヤの指輪 買うてほしきわあ（わの時もある）

##### (ロ) 男女共用の「わ」「わあ」

あとから行くわ、こんなん でけへんわ

#### ⑦ 「や」「ねん」をよく使う

現代大阪弁は「や弁」と言っていいほどである。例えば東京弁の「そうだ」という言葉は、大阪弁では「そうや」である。この2つの言葉を比べてみると、大阪弁の方が柔らかい感じがするのがわかる。「そうだ、そうだ」と2つ並べる場合も、大阪弁の「そうや、そうや」は緩慢な感じがする。しかし「そや そや」は敏速で、「そうだ、そうだ」よりも、はるかに軽妙である。つまり大阪弁には、柔軟性という根本的な性質があるといえる。

東京弁の「のだ」と、大阪弁の「のや」の変化の様子を対照させてみる。

東京弁 大阪弁

- |               |           |
|---------------|-----------|
| 1. どうしたと言うのだ  | どないした言うのや |
| 2. どうしたって言うんだ | どないした言うねや |
| 3. どうしたってんだ   | どないした言うねん |

東京弁は、くずれても「んだ」止まりで、最後まで「だ」が残っているが、大阪弁は「のや」や溶け合って「ね」という語にまで変化している。また、その下に「けど」「がな」「よ」「れ」等の助詞をつけることが出来る。

さらに現在では、「しありまんねんや」「なんでやねん」のように、「ねん」の元である「や」と「ねん」を重ねて使っている。

#### ⑧ 形容詞の感動詞化

東京で、「ああ寒い」というのを、大阪では、「ああさむ」と言う。このように、大阪では、寒いの「い」を言わないなど、形容詞の感動詞化が行われている。こういう現象は全国に類がない。語頭「ああ」の部分は、抑揚緩急、深浅強弱、感情のかげりを、あやを自由

在に表出する。語尾または形容詞語幹のもつ意味を焦点的に表現、伝達する。つまり、大阪人の活なる気風が、この機能を十二分に發揮させていといえる。

また、現代大阪弁では、簡略化ということをその特性の1つとして持っているために今や、語頭に感動詞を必要とせず、いきなり「あはらし」とか「あほくさ」とか言うことも興りつつある。形容詞の感動詞化という精神を徹底させようとすれば、当然ここまで来なければならない。一種の合理化ともいえる。しかし、それはまた同時に、表情力の後退でもあると思う。

#### ⑨ 語尾に「な」をつける

「あのな」「そうやねんなあ」というように「な」「なあ」を付けることにより、その情を相手に人なつっこく訴えることができる。

この命令にも2通りある

- 命令形命令法……言え → 言えで → 言わんか → 言わんかい → 言わんかいな
- 連用形命令法……言い → 言いいな → 言いんか → 言いんかい → 言いんかいな

「言い」だけの時には、さほど急迫性も感じないのに、「言いいな」といわれると、言わないでいるわけにはいかぬという気持ちになる。また、「言わんかい」などと言われると、負けず嫌いの人なら反発するかもしれない。しかし、それにたった一音「な」を付けただけで、感じが変わる。

このように「な」は、急迫性を感じさせたり、語気がおだやかになったり、わたる気持ちが表れたりする。

- (例) だれやい → だれやいな      取ってんか → 取ってんかいな

#### ⑩ 「です」と「だす」

「です」を大阪弁では「だす」と言う。しかし、標準語の普及によって大阪でも「です」を使うようになった。しかし、それは、東京弁そのものを使っているのではない。

#### 大阪弁

だす	です
1. だっしゃろ…… でっしゃろ	でしょう
2. だしてん……… でしてん	でした
3. だけ) ………… です	です
4. だんね(ん) …… でんね(ん)	(なのです)
5. だんな……… でんな	ですな
6. だっか……… でっか	ですか
7. だっせ……… でっせ	ですぜ
8. だんが(ぬ) …… でんが(ぬ)	(ですよ)

#### 東京弁

上の表で比べてみると、東京弁の「でしょう」「でした」は、論理的価値の表現には好適だが、情意的価値という点では、「だっしゃろ」「でしてん」の方が、はるかに富んでいるといえる。

大阪人は、標準語の普及で東京弁そのものを使っているのではなく、大阪人の情意的とい

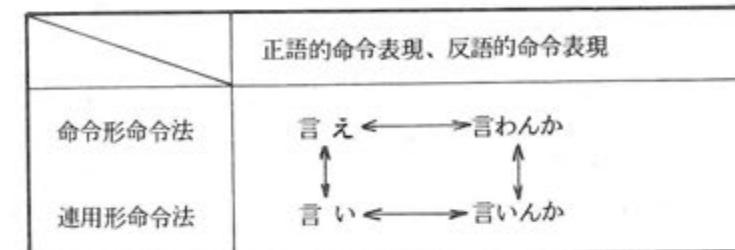
う性格にあった大阪独特の言葉を、図太い大阪の根性によって生み出したのである。

#### ⑪ 表現形式が多い

「言う」という動詞の命令形で考えてみると

東京弁には  $\begin{cases} \text{言え} & (\text{正語的命令表現}) \\ \text{言わんか} & (\text{反語的命令表現}) \end{cases}$  の2通りしかないが、

大阪弁には、言え、言わんか、言い、言いんかの4通りがある



さらに上の4通りの命令表現の表現力に、助詞が助けて幅を出している。

言え	言え (イエ) 男女共用
	言えや (イエヤ) 男子専用
言い	言い (イイ) 男女共用
	言いいな (イイーナ) 男女共用
言わんか	言いで (イイデ) 女子専用
	言いや (イイヤ) 男女共用
言わんか	言わんか (イワンカ) 男女共用
	言わんかい (イワンカイ) 男女共用
	言わんかいな (イワンカイナ) 男女共用
	言わんかいや (イワンカイヤ) 男子専用
言いんか	言いんか (インカ) 男女共用
	言いんかい (インカイ) 男女共同
	言いんかいな (インカイナ) 男女共同

大阪弁は表現形式が多いので、剛柔硬化の使い分けが出来、表現能力が大きい。つまり、相手の人格そのものを描すぶる言語表現であり、表情力を持っている。

#### N 考察

大阪弁には京都弁のような柔らかさや優しさがあり、聞く人の心を和やかにする。しかし、この柔軟性が、時には歯切れが悪く感じさせ、現代大阪弁の冗漫的、迂回的という特質の原因になっているのである。また、大阪弁には、江戸っ子のような快活性、直進性があり急進性を感じさせる。つまり大阪弁は感情を自由自在に表出する情意的価値のある言葉だといえるのだ。このことから、大阪弁は大阪人のための言葉であって、歴史のためでも他郷人のためでもない京都弁や江戸っ子の長所だけを取り入れ、大阪独自の言葉を生み出しているといえる。大阪弁

こそ、恐るべき創造精神と実行力のある言葉ではないだろうか。そして今、簡略化の道をたどる大阪弁は、ますます大阪ならではの言葉に変化しつつある。

#### ▼ 感想（大阪弁で）

まさか、うちらのやった自由研究が、ほんまにのるとは思ってませんでした。びっくりします。でも、自分なりにはようやったと思ってます。正直に言うたら、研究する前に、「本にのるようになんばろ」ちゅうてたんです。やあ、感激やなあ！

共同研究ゆうたら、あんまり2人の都合も合えへんし、うまいこといかへんてよう言うけど、うちらは、始めて計画たてたよってに、うまいこといったんやと思います。3年間の中で、いっちゃん熱中出来たし、やりがいもあったと思ってます。

大阪弁にも、いろんな長所や短所があるけど、わかったことは、大阪弁がすごく情意的や、ちゅうことです。つまり、それを使っている大阪人は、ほんまに人情身のある人やのです。やっぱり、"いっちゃんええで" 大阪弁は！

#### —参考文献—

「大阪弁」 前田勇著